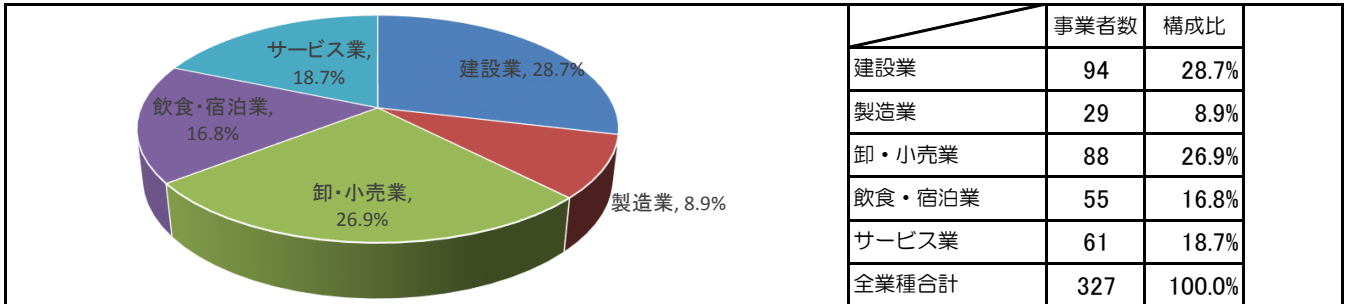


十日町市商工会地域 企業景況調査 第1四半期報告書（H29.4.1～H29.6.30）松之山地区

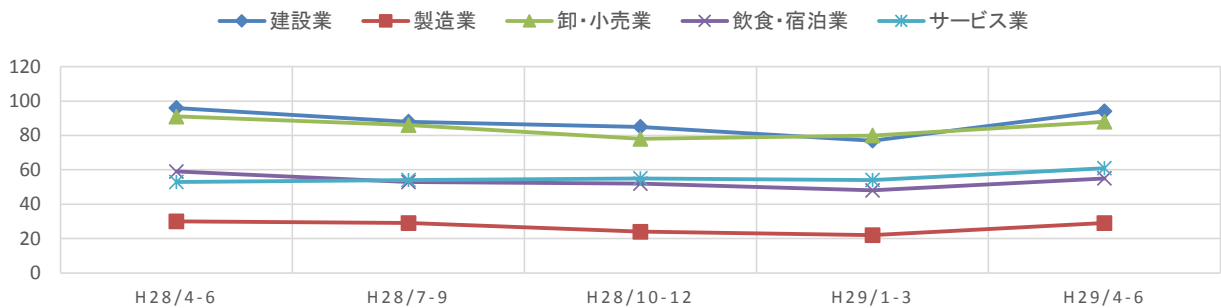
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



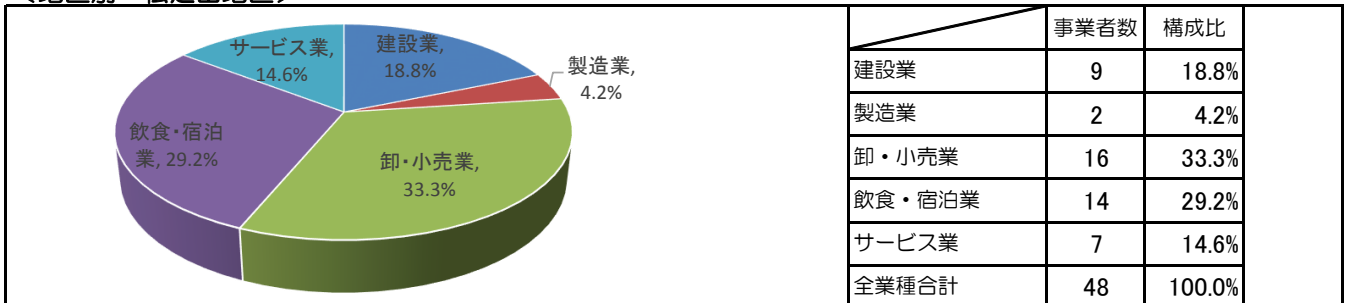
業種別調査事業所数の推移（市内全体）



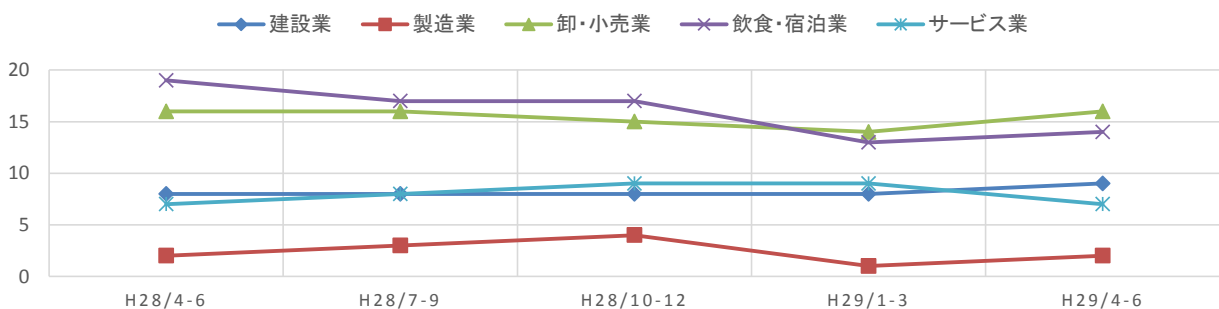
<コメント>

市内商工会地域全体の商工業者1056社の約31%からの回答を基に集計した結果である。製造業の割合が少ないものの、その他の業種に大きな偏りのない調査結果である。

<地区別：松之山地区>



業種別調査事業所数の推移（地区）



<コメント>

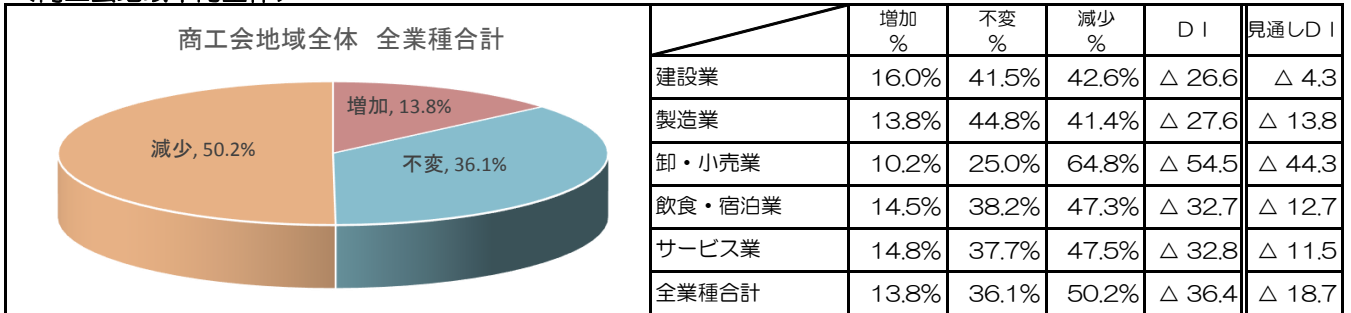
松之山地区の回答企業は69社依頼に対し48社であり、回収率は69.6%であった。前回調査時が66.2%であったので3.4%上昇した。しかし、サービス業からの回収率だけが減少した結果となった。業種別構成比は過去の調査と大きな違いは無い。

D I 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

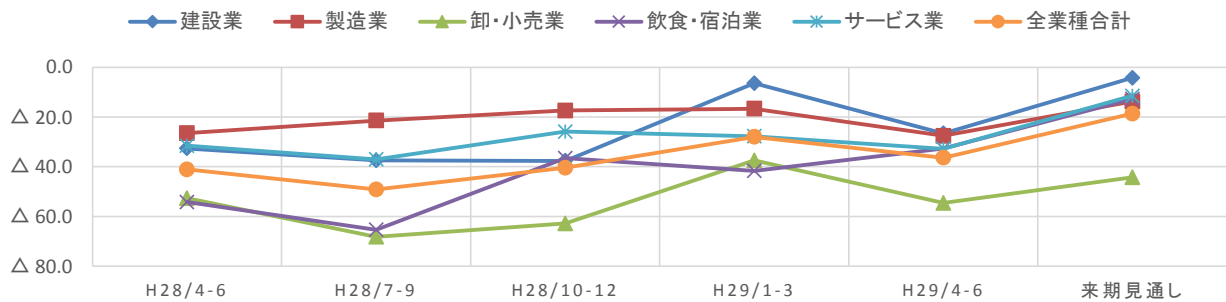
1. 売上について

- ・4月～6月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



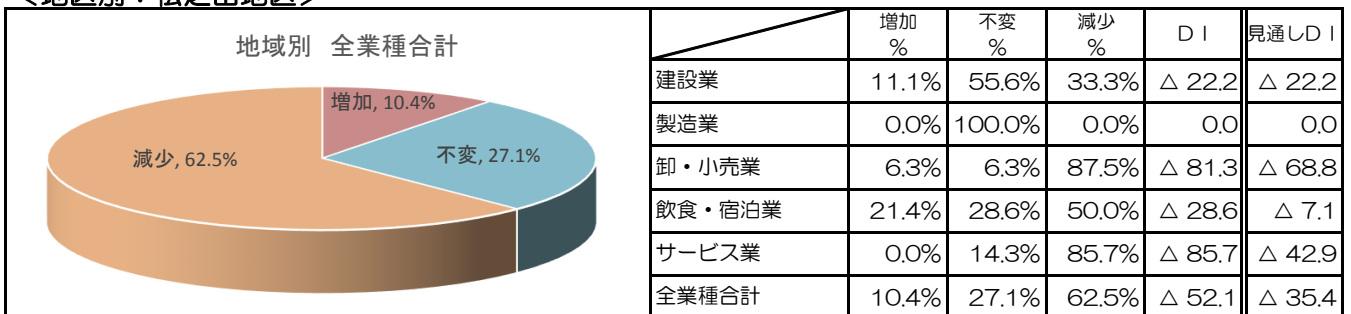
業種別売上の推移（市内全体）



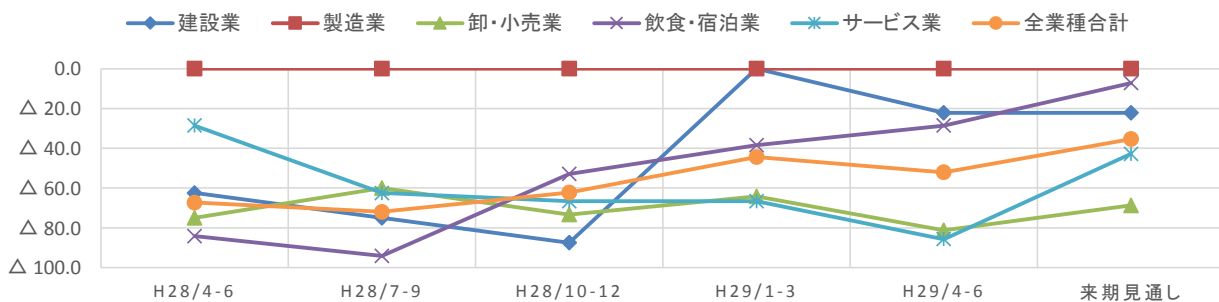
<コメント>

売上は、プレミアム商品券の使用期間中であったものの、前年同期と比較して、全業種で△36.4ポイント減少。特に卸・小売業の減少が目立つ。来期見通しは、全業種で17.7ポイント改善を予想。特に、建設業は22.3ポイント改善を予想している。

<地区別：松之山地区>



業種別売上の推移（地区別）



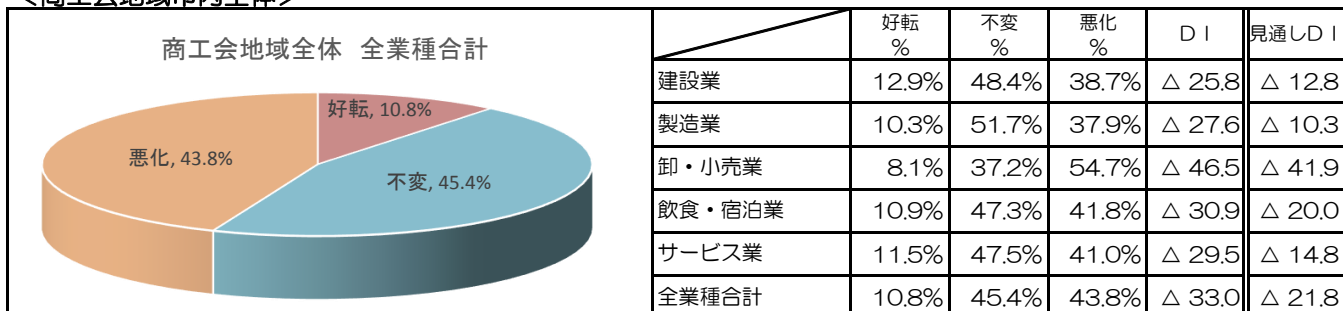
<コメント>

松之山地区の売り上げ状況は建設業、卸・小売業、サービス業で前回調査時よりも減少を示している。飲食・宿泊業は、9.9ポイントの改善が見られた。全業種合計で見た場合7.7ポイント悪化との結果となっているが、来期の見通しでは16.7ポイントの改善が見られることから今後の状況に注視したい。

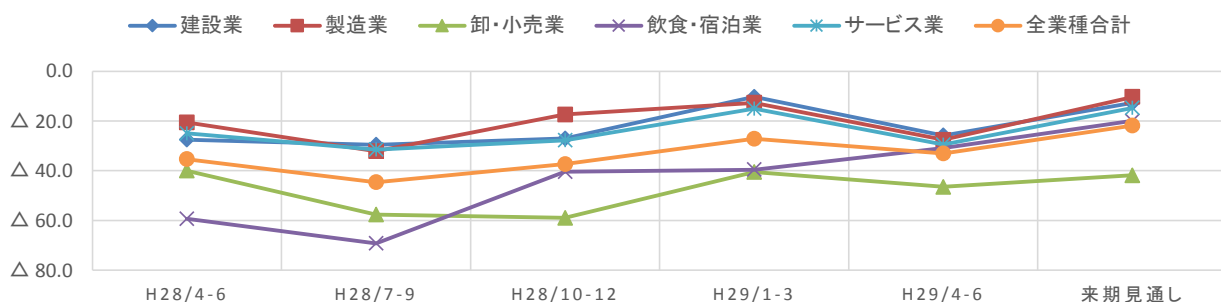
2. 採算について

- ・4月～6月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



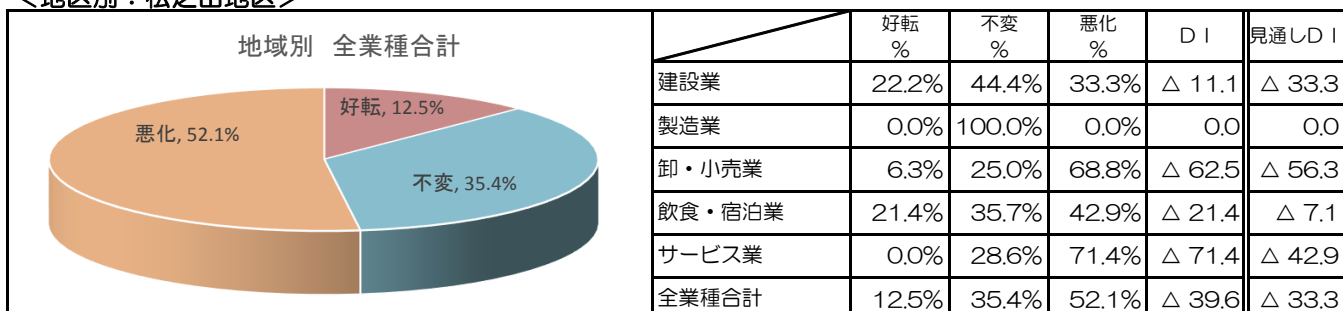
業種別採算の推移(市内全体)



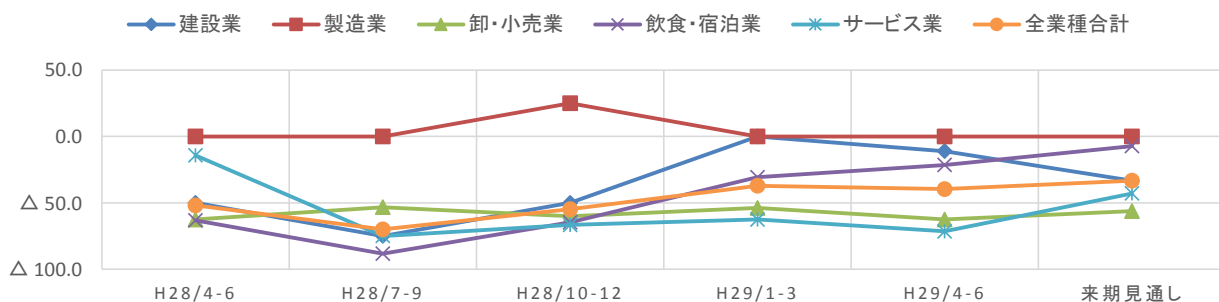
<コメント>

採算は、前年同期と比較して、全業種で△33ポイント悪化。特に卸・小売業の悪化が目立つ。来期見通しは、全業種で11.2ポイント改善を予想しているが、卸・小売業は、依然として厳しい予想をしている。

<地区別：松之山地区>



業種別採算の推移(地区別)



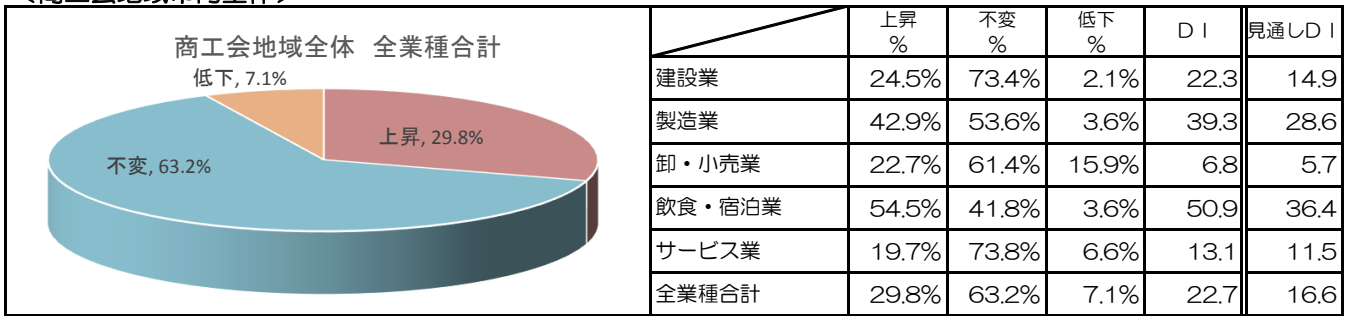
<コメント>

松之山地区の採算の状況は、元々のDI値が低いことから、市内全体に比べ△2.4ポイントの悪化で済んでいる。建設業の悪化ポイントが高く、来期の見通しでも更なる悪化を予想している。飲食・宿泊業は前回調査よりも好調で、来期の見通しも明るい兆しを示している。

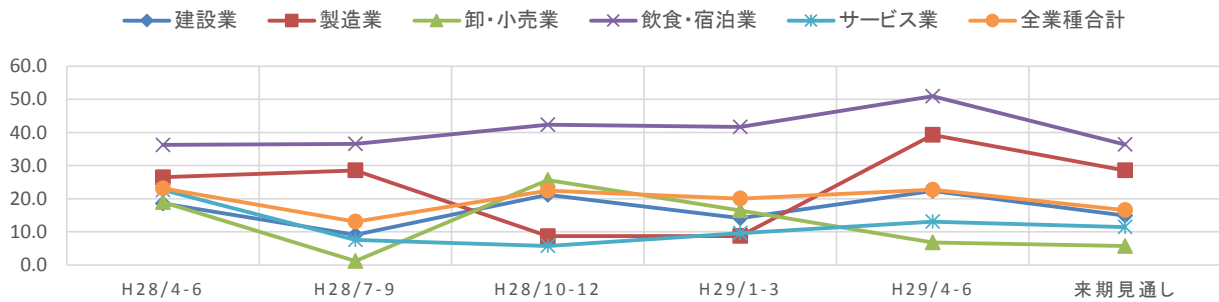
3. 仕入単価について

- ・4月～6月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



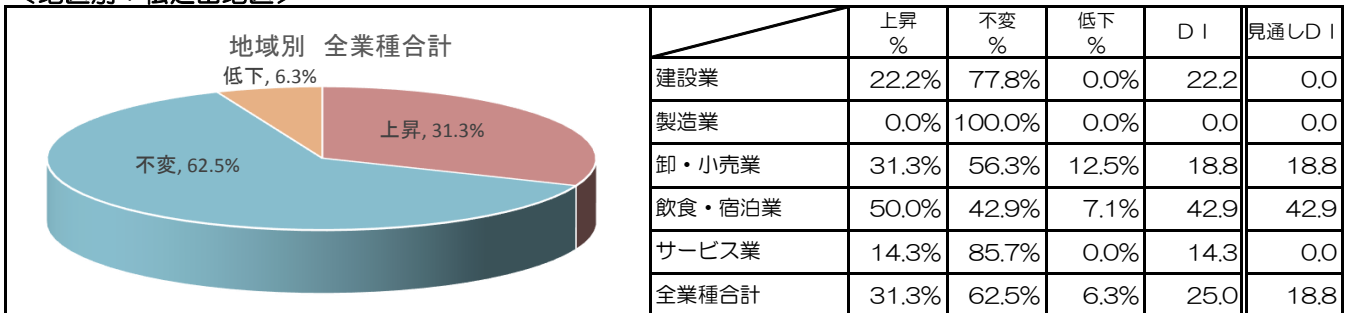
業種別仕入単価の推移(市内全体)



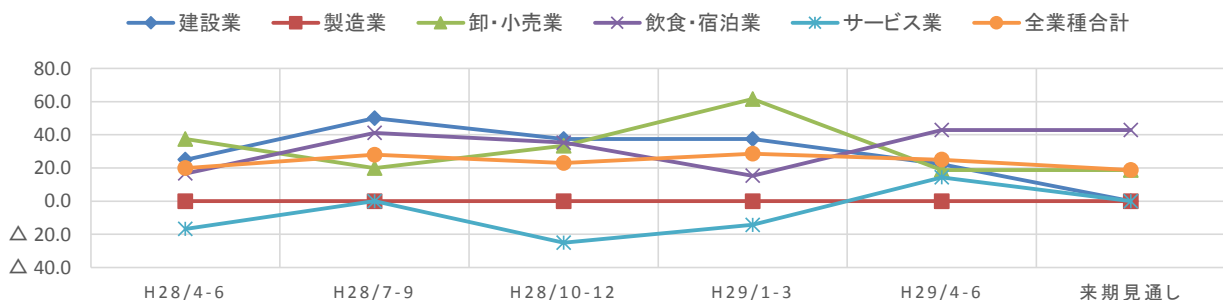
<コメント>

仕入単価は、前年同期と比較して、全業種で22.7ポイント上昇。特に、飲食・宿泊業及び製造業の上昇が目立ち、売上原価を押し上げている。来期見通しでも、若干落ち着いていくように思われるが、この傾向は変わらないと予想している。

<地区別：松之山地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



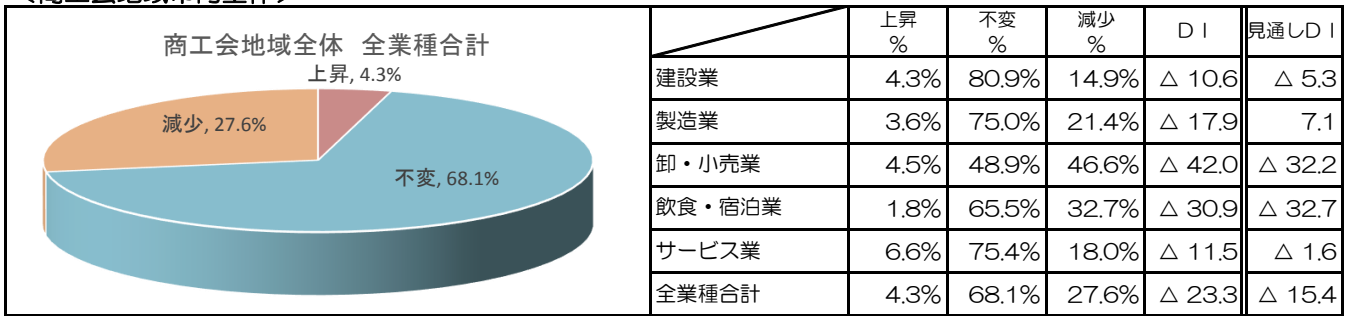
<コメント>

松之山地域の仕入単価状況は、飲食・宿泊業、サービス業において価格上昇と回答されており、特に飲食・宿泊業は、来期の見通しも同等ポイントの回答があり、厳しい状況が継続するものと予想されている。ただし、その他の業種においては、不変、減少との見通し予想されていることから、全業種では6.2ポイント改善予想されている。

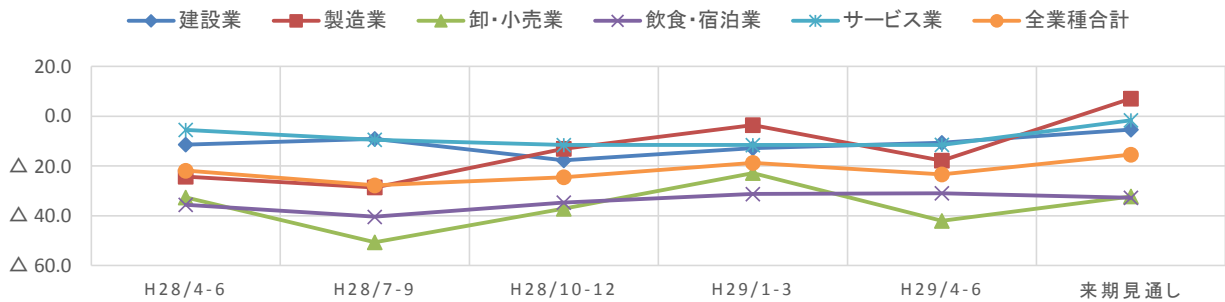
4. 販売（客）単価について

- ・4月～6月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



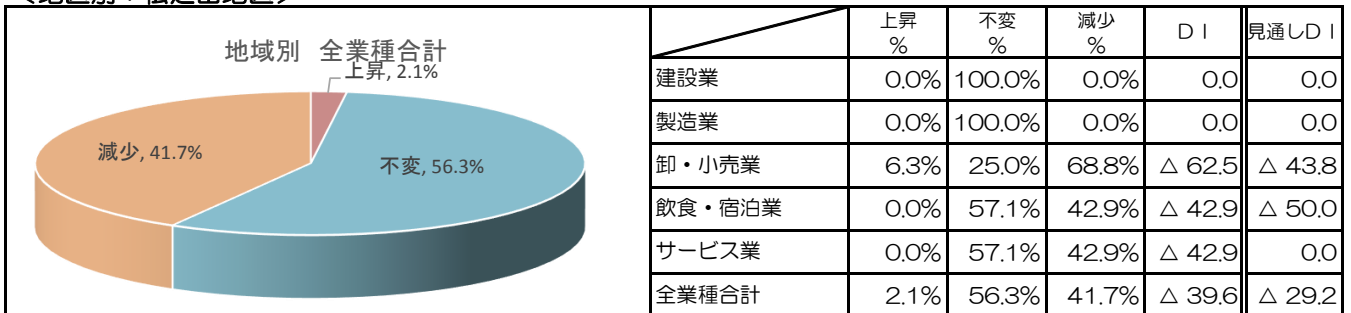
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



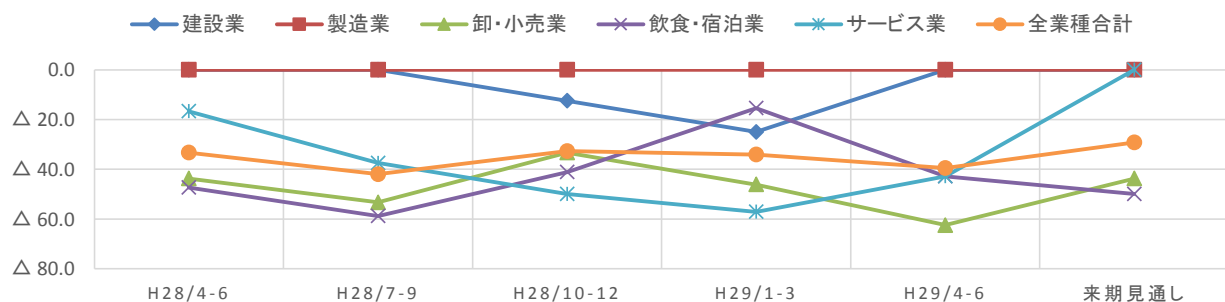
<コメント>

販売単価は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△23.3ポイント低下。来期見通しは、全業種では上昇傾向であるが、飲食・宿泊業は減少傾向と厳しい見方をしている。

<地区別：松之山地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



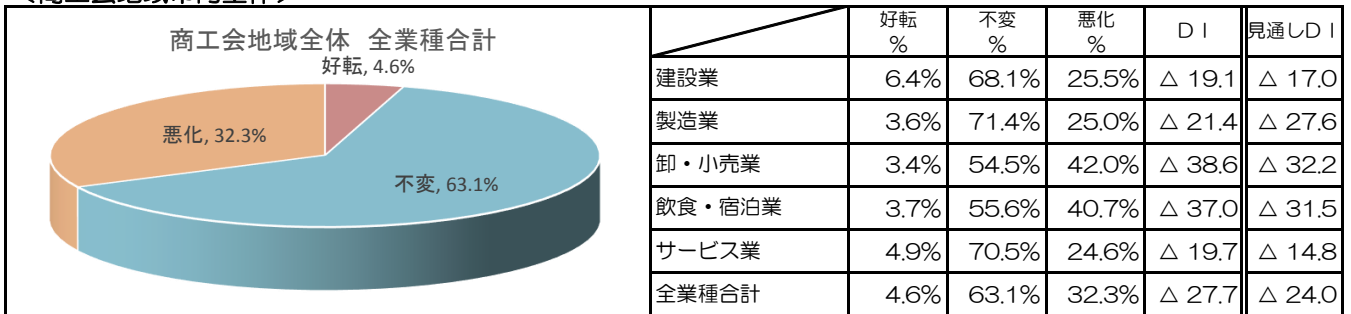
<コメント>

松之山地区の客単価の状況は、業種によって大きく状況が変わっている。建設業、サービス業は前回調査時よりも改善傾向にあるが、飲食・宿泊業、卸・小売業では悪化を示している。全業種合計で見ても前回調査時よりも△5.5ポイントと悪化傾向にあるが、来期の見通しで10.4ポイントの改善予想が見られ、今後の動向に期待したい。

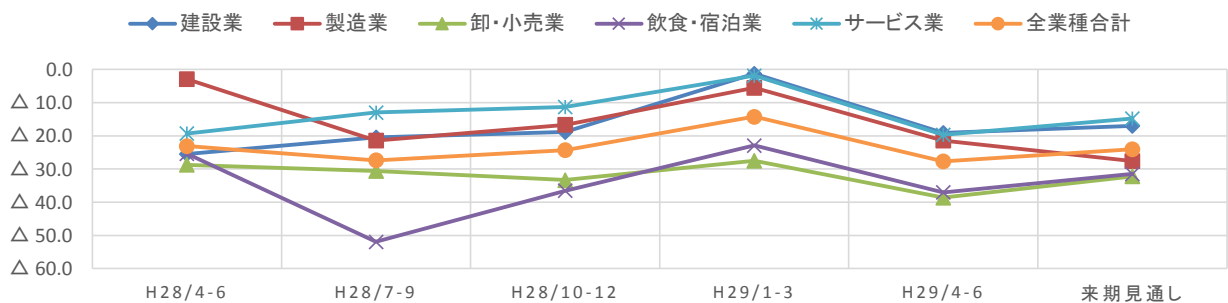
5. 資金繰りについて

- ・4月～6月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



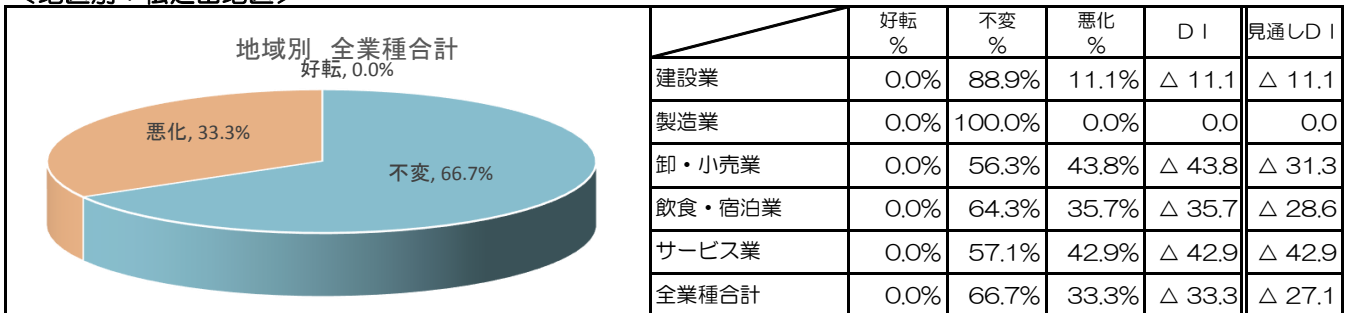
業種別資金繰りの推移(市内全体)



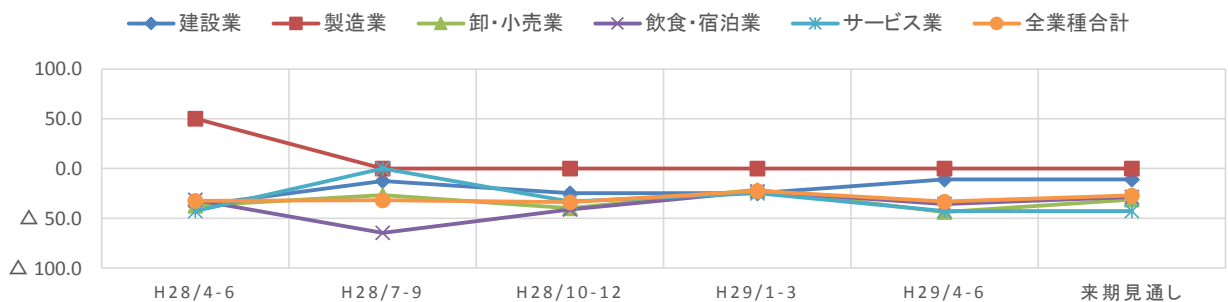
<コメント>

資金繰りは、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△27.7ポイント悪化。特に、卸・小売業及び飲食・宿泊業の悪化が目立つ。来期見通しでも、この傾向は変わらない。

<地区別：松之山地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



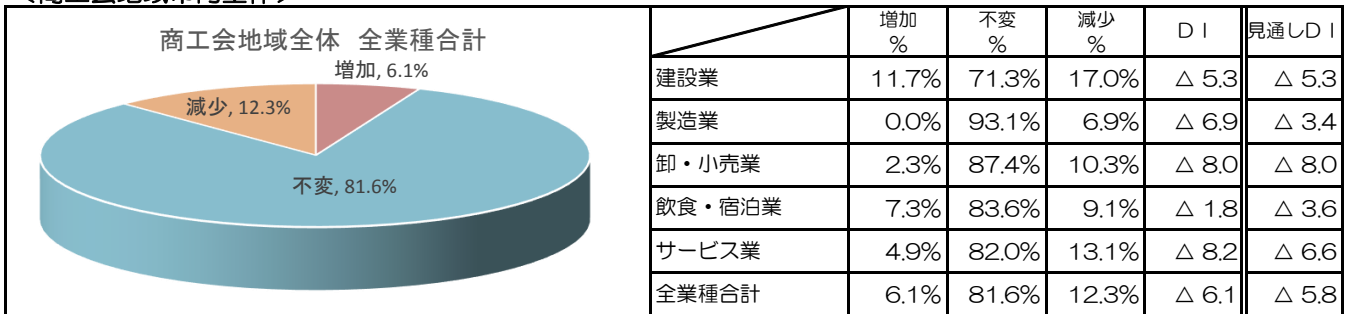
<コメント>

松之山地区の資金繰り状況は、好転との回答企業は1つも無く、3分の2が不変、3分の1が悪化と回答されており、全業種で前回よりも△10.6ポイントとなっている。業種別では、建設業のみ前回より改善が見られたが、卸・小売業、飲食・宿泊業、サービス業で悪化を示している。来期の見通しでは、若干であるが改善予想されている。

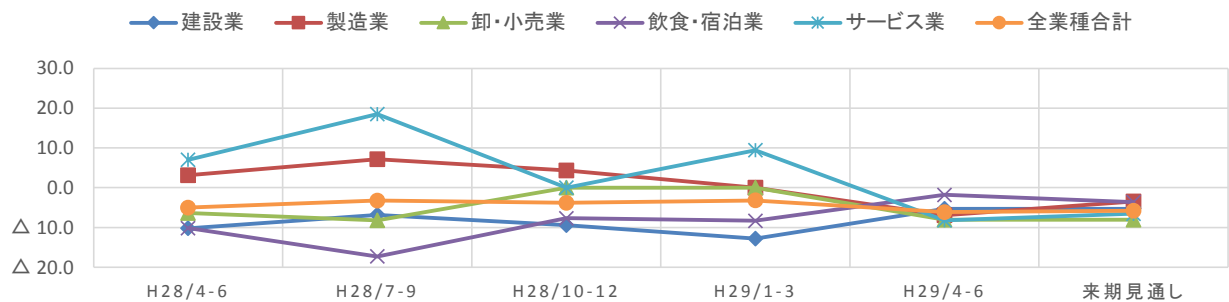
6. 従業員数について

- ・4月～6月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



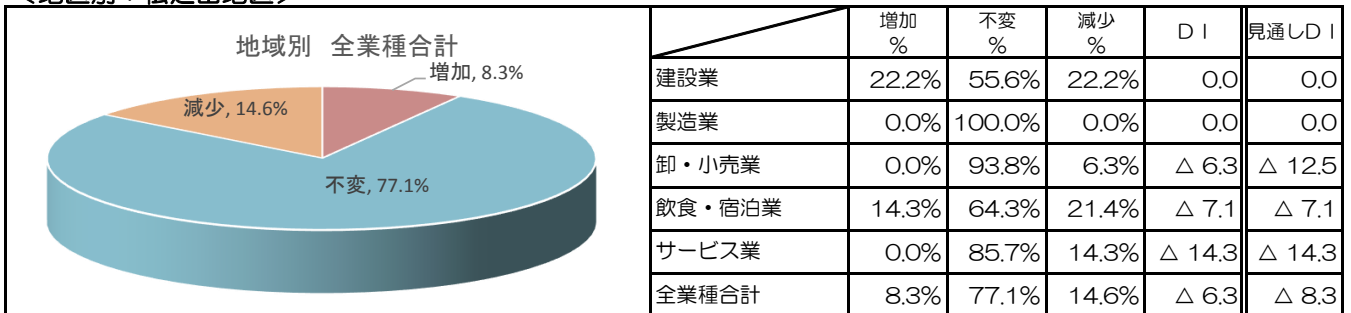
業種別従業員数の推移(市内全体)



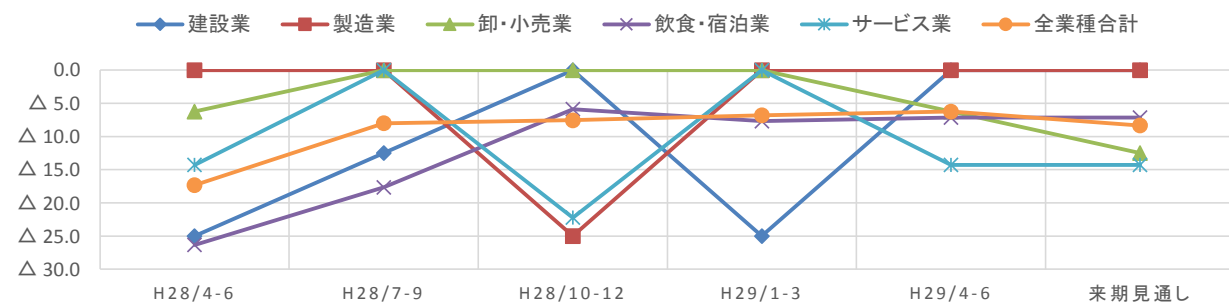
<コメント>

従業員数は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△6.1ポイント減少。来期見通しも同じような傾向である。

<地区別：松之山地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



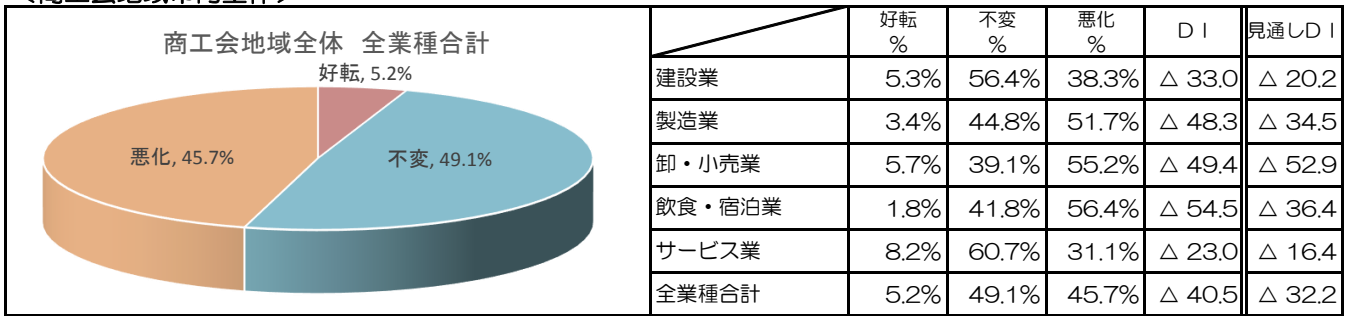
<コメント>

松之山地区の従業員数の状況は、建設業で大きな改善が見られるが、冬季解雇により前回減少したものが、春になり現況に戻ったものと推測される。不変との回答が多いことが安心要素であるが、全業種でみると大きな変動が無いものの、卸・小売業、サービス業において減少傾向にある。

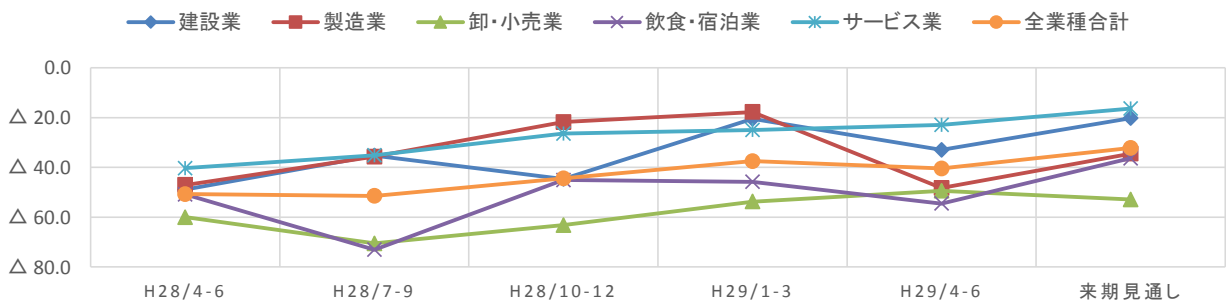
7. 景況判断について

- ・4月～6月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



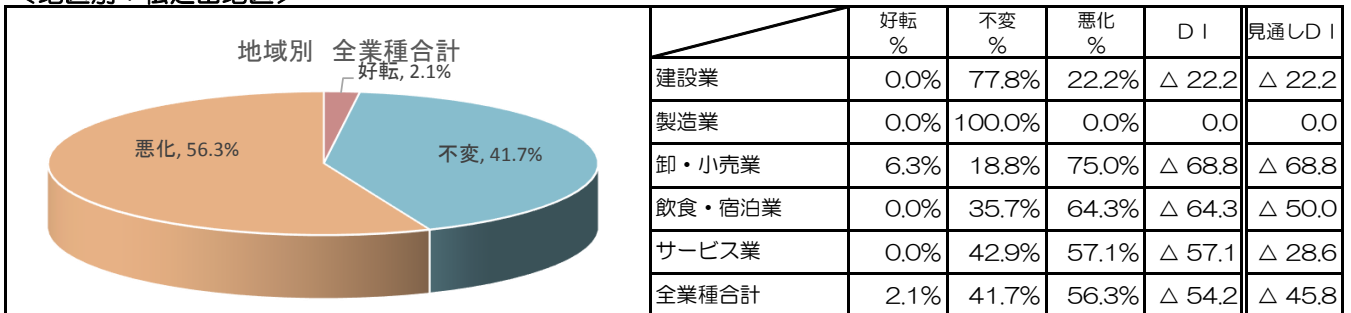
業種別景況判断の推移(市内全体)



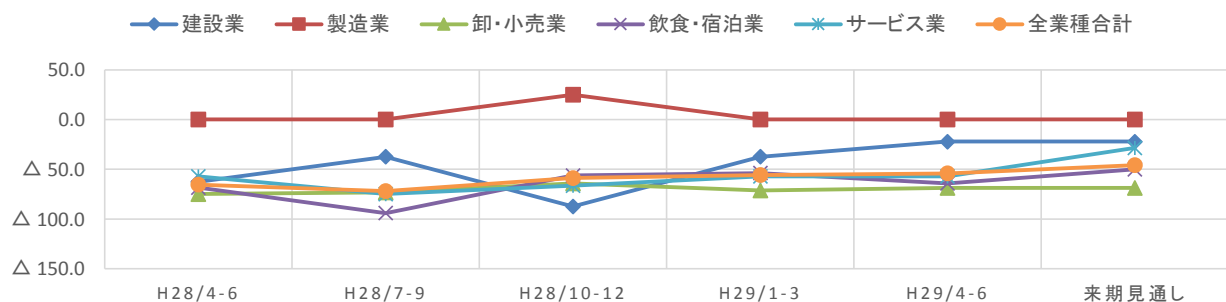
<コメント>

景況は、前年同期と比較して、全業種で△40.5ポイント悪化。製造業及び卸小売業並びに飲食・宿泊業の半数以上が悪化と回答している。来期見通しは、全業種で8.3ポイント改善予想であるが、卸・小売業では△3.5ポイント悪化を予想している。

<地区別：松之山地区>



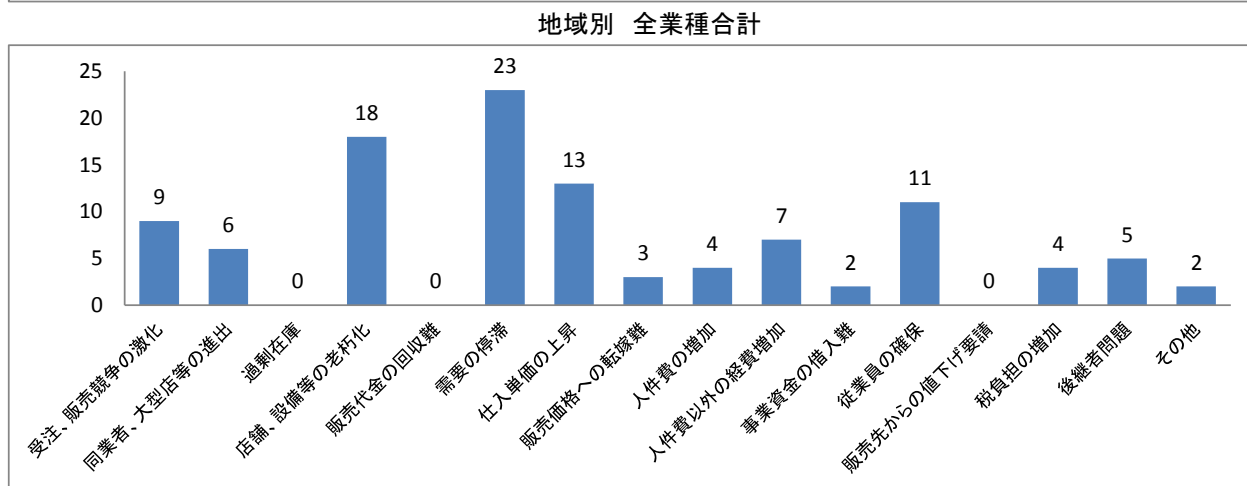
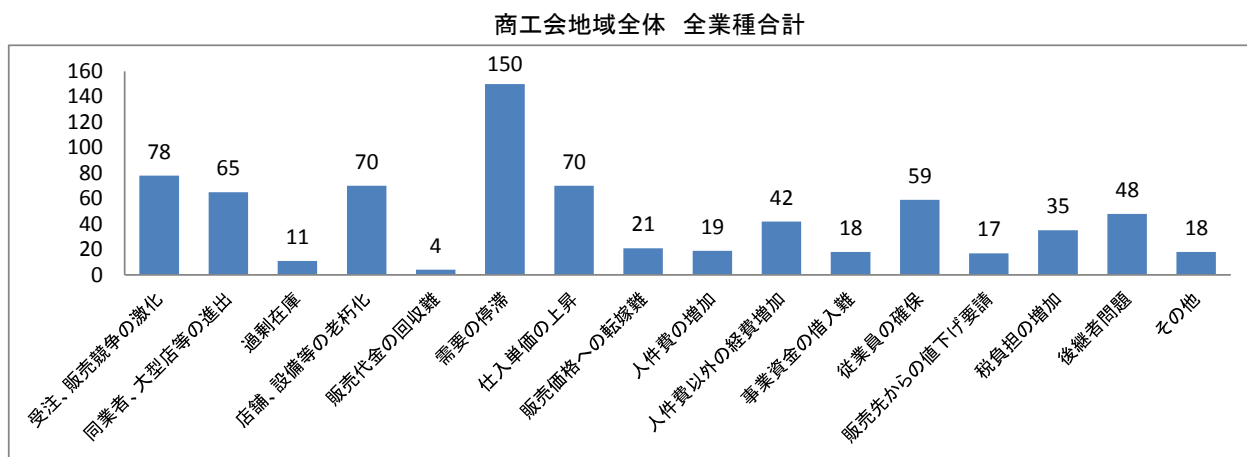
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

松之山地区の景況判断は、全業種で見た場合大きな変動が無いものの、市内全体よりも20ポイント低迷した状況で推移している。来期の見通しで若干の改善予想が見られるが、現在の状況が続くものと予想される。

8. 経営上の問題点（上位3つ）：4月～6月



<コメント>

経営上の問題点、1位「需要の停滞」2位「受注、販売競争の激化」3位「店舗、設備等の老朽化」「仕入単価の上昇」となり、前回調査の1位、2位は、今回も変わらなかったが、3位「従業員の確保」は6位となった。
 松之山地区では「店舗、設備等の老朽化」が2位との結果が出ており、今後の設備投資に期待したいとある。

9. 地域の景況概要

・4月～6月時点での全体概況は

【建設業】
 全ての項目で前年同期比で「不変」との回答が多かったものの、売上、資金繰り等の回答状況から受注量の減少がうかがえる。しかし、前年同期のDI値を見ると、昨年よりも改善されているように思われる。経営上も課題では「需要の停滞」に続き、「従業員の確保」が多く回答されており、従業員の高齢化に伴う技術継承も今後の課題と捉えている。景況判断のDI値も他業種より低い値を示しているが、売上の見通しも改善予想が見られないこともあり、大幅な受注量増加は無いものと予想される。

【製造業】
 製造業の状況は、全ての項目で変動が無く、一番安定している業種である。今後の見通しにおいても変動回答は無く、安定した状況で推移されるものと思われる。経営上の課題では、「人件費の増加」「従業員の確保」が回答されており、最低賃金の引上げも実施されることから、今後の動向に注視しなければならない。

【卸・小売業】
 卸・小売業は、他業種よりもDI値が低い状況を推移しており、売上で前年同期DI値と比較しても悪化していることから、地域全体の消費力が落ちてきていることがうかがえる。項目ごとに見てみると、来期の見通しで若干好転傾向にも思われるが、従業員数の見通しが減少予想されていることから、経費削減のための従業員変動が懸念される。経営上も課題では「需要の停滞」に続き、「店舗設備の老朽化」回答が多くあるが、採算、資金繰りの状況から設備投資に踏み切れないものと思われる。

【飲食・宿泊業】
 飲食・宿泊業は、売上、採算も好転傾向にあるが、仕入単価の上昇と販売単価の減少が見られ、安定した状況とは捉えにくい。今後の見通しも今期と変動の無いものと予想されている。経営上も課題では「需要の停滞」よりも「店舗設備の老朽化」「仕入単価の上昇」が多く回答されており、異常気象による野菜等の価格高騰が今後も続くことが予想されることから、この状況も改善されるまでにある程度の期間が必要であると思われる。

【サービス業】
 サービス業では、業種別売上のDI値が最も悪く、△85.7ポイントで前回調査時よりも19ポイント悪化している。採算でのDI値は前回とあまり変わっていないが、△71.4ポイントで業種別で一番悪い結果となっており、厳しい状況であると言える。今後の見通しで改善予想されていることから、回復の兆しと捉えたいところである。経営上の課題では「経費負担の増加」が多く、売上減少と重複して経営を圧迫していることがうかがえる。